

審議会会議録

1	会議の名称	令和4年度第3回富津市子ども・子育て会議
2	開催日時	令和5年3月23日（木） 午後1時30分～午後2時35分
3	開催場所	富津市役所2階 第3委員会室
4	審議等事項	議題 （1）特定教育・保育施設の利用定員について （2）第Ⅱ期富津市子ども・子育て支援事業計画の 中間年見直し（案）について
5	出席者名	○出席委員 安藤 沙耶佳、牧野 裕紀子、尾坂 順子、 渡瀬 栄一（岩濱真也委員代理）、棟方 淳子、 鈴木 秀弘、君塚 善恵、茂木 聖信、宗政 朱利、 三木 千明、保坂 典江 ○事務局 坂本健康福祉部長、小野田子育て支援課長、 田内子育て支援課長補佐、水島子育て支援係長、 荒木主任主事、圓川健康づくり課主査、 黒川学校教育課長
6	公開又は非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7	非公開の理由	
8	傍聴人数	1人（定員5人）
9	所管課	健康福祉部子育て支援課子育て支援係 電話 0439-80-1256
10	会議録（発言の内容）	別紙のとおり

発言者	発言内容
<p>事務局 (荒木主任主事)</p>	<p>それでは、定刻となりましたので始めさせていただきます。 改めまして、皆様こんにちは。本日、進行を務めさせていただきます、健康福祉部子育て支援課の荒木です。よろしくお願いいたします。</p> <p>開会に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>【会議資料】</p> <p>(事前配付資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1－1 青堀保育園の利用定員 ・資料1－2 明澄幼稚園の利用定員 ・資料1－3 特定教育・保育施設の利用定員について (補足説明) ・資料2－1 第Ⅱ期富津市子ども・子育て支援事業計画 中間年見直し(案) ・資料2－2 中間年見直しに係る素案からの修正内容 ・第Ⅱ期富津市子ども・子育て支援事業計画(冊子) <p>(当日配付資料)</p> <p>次第、委員名簿、席次表</p> <p>資料1－4 事前に出された意見と市の考え方(特定教育・保育施設の利用定員)</p> <p>以上が、本日の会議資料でございますが、お揃いでしょうか。不足がある場合は挙手にてお申し出ください。</p> <p>(会議の成立)</p> <p>ここで、委員の出席状況をご報告いたします。本日、15名の委員のうち、委員名簿3番中田委員、4番武内委員、7番宮原委員、11番今井委員の4名におかれましては欠席でございます。また、岩濱委員の代理といたしまして、渡瀬栄一様にご出席いただいております。</p>

発言者	発言内容
<p>議長 (三木会長)</p>	<p>従いまして、11名の方が出席され、委員の過半数を超えておりますので、本会議設置条例第6条第2項の規定により、会議が成立しておりますことをご報告いたします。</p> <p>(会議の公開)</p> <p>この会議は、富津市情報公開条例第23条の規定により、会議を公開することとなっております。なお、本日の傍聴人は1名でございます。</p> <p>また、会議録作成のため、会議の内容を録音させていただきますので、ご了承くださいますようお願いいたします。</p> <p>(音響設備)</p> <p>皆様の前にありますマイクにつきましては、緑色のスイッチを押してからご発言いただきます。ご発言の際は、恐れ入りますが挙手の上、三木会長からの指名後、ご発言いただきますようお願いいたします。</p> <p><次第1 開会></p> <p>ただ今から、令和4年度第3回富津市子ども・子育て会議を開会いたします。</p> <p><次第2 会長挨拶></p> <p>議事に入る前に、三木会長からご挨拶を頂戴したいと存じます。よろしくようお願いいたします。</p> <p>皆さんこんにちは。お忙しい中、子ども・子育て会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>この4月から国の方の取り決めといたしまして、新たに子ども家庭庁というものが新設され、岸田総理の言葉を借りれ</p>

発言者	発言内容
	<p>ば、異次元の子育て支援、異次元の少子化対策、この部分について、今まで国としても、また各自治体でも取り組んできたところでありますけれども、より突っ込んだ内容で高みに向けての対応を国を挙げて、また地域を挙げて取り組んでいることの一端が示されたわけであります。</p> <p>また、具体的には、現在の保育園に、また幼稚園に、子供さんを預けようとするときに、親御さんの就労時間の関係ですとか、収入の部分ですとか、いろいろな制約といたしますか、そういった制限もあったのが事実あるのですけれども、そこら辺の緩和をしながら、お父さん・お母さんが今、共働きというのが死語と言ってもいいくらい、どこの家庭でもお父さんもお母さんも仕事をしている。これが当たり前の状況の中において、その間、子供さんをどうするのかということ。これについても制度が緩和されて、より親御さんは、安心して働きに行けて子供さんを安心して預けられる先には、拡充されるというふうな具体的な内容も取り上げられております。</p> <p>翻って、富津市の子ども・子育て会議で、これについては多様な子育て支援、少子化対策という中でも、各地において、まず、子供さんの入園等の希望の数と受入先の数はず、足りているのか、不足がないのか。不足があった場合はどうするのか。また、その対象地域はどうするのかというふうな、より地域に根ざした受入状況等の話題を中心に、皆様方にご意見をいただきながら計画を立て、子育てに矛盾のないような、また困ることのないような地域づくりをしていこうということの会議でございます。</p> <p>皆様方には、この4月1日からのこども家庭庁の発足と合わせて、より皆様方からのご見識、またご意見等、重要なポジションを占めてまいりますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。まとまりませんが、冒頭に当たり</p>

発言者	発言内容
事務局 (荒木主任主事)	<p>ましての私からの挨拶といたします。よろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。三木会長には引き続き、議事の進行をお願いいたします。</p>
議長 (三木会長)	<p><次第3 会議録署名人の指名></p> <p>では、議長を務めさせていただきます。</p> <p>まず、初めに、会議録署名人の指名をさせていただきます。</p> <p>本日の会議録署名人の指名でございますが、会長のほか、慣例により委員の皆様方からお一人をお願いしております。今回は茂木委員にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。</p>
茂木委員	<p>よろしくお願いいたします。</p>
議長 (三木会長)	<p><次第4 議題></p> <p>続きまして、次第4の議題に入ります。</p> <p>議題(1)「特定教育・保育施設の利用定員について」を議題といたします。では、このことについて、事務局の説明を求めます。</p>
事務局 (田内課長補佐)	<p>保育係の田内です。よろしくお願いいたします。</p> <p>始めに、議題(1)特定教育・保育施設の利用定員につきまして、ご説明申し上げます。</p> <p>本議題は、資料1-1青堀保育園の利用定員及び資料1-2明澄幼稚園の利用定員につきまして、ご意見を伺わせていただくものです。説明は、資料1-3に沿って行わせていただきますので、資料1-3の1ページをご覧ください。</p>

発言者	発言内容
	<p>まず、1の本議案の趣旨ですが、令和5年4月1日から、純真福祉会が青堀保育園の運営を開始し、また明澄幼稚園が認定こども園に移行することに伴い、その利用定員を定めるに当たり、子ども・子育て支援法第31条第2項の規定により、この会議でご意見を伺うものでございます。</p> <p>次に、2の保育所及び認定こども園の設置認可等についてですが、利用定員の設定に当たりましては、事業者が県に保育園の認可や、認定こども園の認定を申請し、それぞれ認可・認定を受ける必要があります。</p> <p>青堀保育園は、運営主体が変更になるため、保育所の設置認可を取り直す必要があり、明澄幼稚園は、幼稚園から認定こども園に移行するための認定を受ける必要があることから、いずれも昨年11月に市を通して県に申請し、現在、審査中となっております。申請している定員数につきましては、下の表のとおりとなっております。</p> <p>2ページをご覧ください。下段に、参考として、令和5年3月1日現在の青堀保育園及び明澄幼稚園の利用定員等について、表を記載しております。</p> <p>青堀保育園の0歳児と1歳児の定員数につきましては、現行ではそれぞれ12人となっているのが、申請ではそれぞれ5人と10人となっております。</p> <p>定員数につきましては減少となりますが、現状として、青堀保育園では0歳児の受入を行っていないこと、また1歳児につきましても受入制限をしていることから、実質的には増加するものとなっております。</p> <p>なお、本件の認可・認定につきましては、3月中に行われる見込みとなっております。</p> <p>1ページに戻っていただきまして、次に、3の特定教育・保育施設の確認についてですが、保育園及び認定こども園が</p>

発言者	発言内容
	<p>子ども・子育て支援新制度による施設型給付を受けるには、市長から特定教育・保育施設の確認を受ける必要があります。このため、運営主体の純真福祉会及び富津学園から特定教育・保育施設確認申請書がいずれも本年1月、市に提出されました。この提出された内容が、資料1-1及び資料1-2となっております。なお、今回は、いずれも新設となるため、原則として認可・認定を受ける定員と市で確認する利用定員は同数となっております。</p> <p>再度、2ページをご覧ください。4の利用定員設定の流れにつきましては、記載のとおりでございます。</p> <p>続きまして、資料1-4をご覧ください。</p> <p>こちらは、本議題に関し、事前に安藤委員からいただいたご意見等とそれに対する市の考えを記載してございます。資料に沿ってご説明申し上げます。</p> <p>まず、青堀保育園についてのご意見等ですが2点ございまして、1点目が令和5年3月1日現在より、未満児定員が減少しているが、今後、待機・保留児童が発生した場合は定員を増やしてほしい。2点目が3歳以上児は数名定員が増えてはいるが、需要があるなら同様に思う。全体で200名だったときもあるため、というご意見等をいただきました。</p> <p>それにつきまして、市の回答といたしましては、利用定員数につきましては、純真福祉会から今後保育士を確保し、増やしていきたいとの考えを聞いております。</p> <p>市といたしましても、保育士が働きやすい環境整備や保育環境向上への取り組みを行う私立保育園を支援してまいりますというふうに回答をさせていただきます。</p> <p>続きまして、明澄幼稚園についてです。認定こども園になり、育休明けに入園させたいという声を聞いた、ということで2点ご意見等をいただいております。</p>

発言者	発言内容
	<p>1 点目が資料 1 - 2 及び 1 - 3 の保育を必要とする子供の数、保育を必要とする子供以外の子供の数と利用定員の内訳は、入園希望者の人数と同じか、それ以上の数なのでしょうか？</p> <p>2 点目が市外からの利用が多い園なので、入園希望者が増えた場合、定員を増やすことが可能なら増やしてほしいとのご意見等いただきました。</p> <p>市の回答といたしまして、まず 1 点目ですが、認定区分 1 号から 3 号のことを指しますが、認定区分における年齢別では、入園希望者数が利用定員数を上回っている年齢もありますが、年齢区分においては入園希望者数は利用定員数の範囲内となっています。少しわかりづらい書き方になってしまったので補足で説明させていただきますと、令和 5 年 4 月 1 日現在の現時点での入園児童数において、3 歳児では 1 号認定の定員数 39 人に対し、入園児童数は 43 人となっており、定員数を上回っています。</p> <p>一方で 2 号認定の 3 歳児は定員数 16 人に対し、入園児童数は 12 人であり定員数を下回っております。</p> <p>3 歳児全体の定員数 55 人に対しまして、入園児童数は同じく 55 人となっております。</p> <p>他の年齢区分につきましても認定区分におきましては、定員を超過している部分がありますが、当該年齢の入園児童数は全体定員数の範囲内となっております。なお、当該年齢の全体点数の範囲内であれば、認定区分間 1 号、2 号、3 号人数の調整は可能であるということは県を通じて国に確認済みであります。</p> <p>2 点目の回答について申し上げます。利用定員増の見直しにつきましては、1 号認定子供が連続する過去 2 年間、2 号・3 号認定子供が過去 5 年間、常に利用定員を超過しており、</p>

発言者	発言内容
<p>議長 (三木会長)</p>	<p>かつ各年度の年間平均在所率 120%以上の場合に見直しを行う必要があります。受入体制によるところもありますが、今後の入園希望者数の状況により、必要に応じて事業者と検討してまいります。</p> <p>ただ今、説明と事前に提出された安藤委員からのご意見等々についての市の回答があったわけですが、この件につきまして、委員の皆様方からご質疑等ございましたらお願いいたします。</p>
<p>君塚委員</p>	<p>明澄幼稚園の君塚です。いつも市の皆さまにいろいろお世話になってありがとうございます。移行についてだいぶ進んでいると感謝申し上げます。</p> <p>一つ確認なのですが、3号認定が1歳と2歳なんですね。そうすると、うちの幼稚園は、たまたま小糸側沿いで君津の方から来ていただく方がすごく多くて、住所的には富津なんですけども、どうしても他の市の方が多くなりがちであります。そういう経緯で、令和5年度から認定こども園になるのですけれども、ご兄弟が木更津市や君津市からたくさん来ていただいているのですけれども、3号認定につきましては、1歳と2歳児の兄弟で富津市以外の方が入れない。書類選考にのらないんですよ。そうすると、兄弟で上のお子さんは明澄幼稚園、下のお子さんが明澄幼稚園の1歳・2歳に入れないので、自分の市の保育所を探してそれで入るっていう方が何名かいるのですけれども、市の壁を取り払うことが今後できるのかどうかってことですよ。ちょっと聞いたところ、合っているかわからないですけど、市原の方ですと、何市か合わせて認定区分とかが撤廃されて、どこの市でも自分の希望する市の保育所1・2歳に入れる。また年齢の壁ですよ。</p>

発言者	発言内容
<p>議長 (三木会長)</p> <p>事務局 (田内課長補佐)</p>	<p>3歳だったら入れるのだけれども、1歳と2歳で富津市以外だと入れないっていうお子さんがいるので、各市が話し合ったりなんてことは大変だと思うのですが、今後の見通しとして、できれば兄弟と同じところに預けたいっていうのが親御さんの意見だと思うのです。</p> <p>前に、お父さんが何か所か幼稚園と保育園に兄弟を送って、そのうちの1人降ろし忘れて熱中症で亡くなってしまったっていうのが昨年あったと思うのですが、それは何で同じところに入れてあげることができなかったのかなっていう。国の待機児童をなくす。これが、子育て会議の本当の狙いだったと思うのですが、それが何か本末転倒っていうのですかね。市の壁と年齢の壁で入れないお子さんがいるとかっていうふうになっている部分もあるので、数だけ見ると確かにすごい調整していただいているなってところもすごくあるのですが、今後の展望として、市をまたいで審査していただけたら、年齢を問わず市の会議にのせていただけたらかっていうふうに、そうになっていくといいなっていうのが希望なのですけれども、その検討の余地があるのかどうかってことをお伺いしたいと思います。</p> <p>ただ今の君塚委員からのご意見について、事務局お願いします。</p> <p>ご意見ありがとうございます。現状ですと、ご存知だと思います。利用調整という制度のもとに、各世帯の状況を点数化した中で、優先順位、点数が高い者から順にというところで、もちろん、市外居住の方よりも市内居住の方を優先するというルールのもとに、入園の認定といたしますか、そういった手続きを進めているところです。</p>

発言者	発言内容
	<p>今回、明澄幼稚園さんの方が認定こども園に移行されるに当たって、今回示しておりますが、定員を設定する際に、施設で受けられる目一杯の人数ということで設定自体はしていただいております。現状の中でお話いただいたように、他市さんからの入園という受入人数を増やすということになりますと、定員数をもっと増やす、受入体制をもっと拡充するっていうふうなところが方法としてはございます。現状ですと、利用調整というのは非常に重要な制度であるというふうに市も認識しておりますので、やはり、富津市民の方にとって利用しやすい環境にあるということが富津市にとっては一番重要なのではないかとこのように考えております。かといって、他市からの受入れを拒否、否定するものではないのですけれども、そういった点で現状考えておりますので、また幼稚園さんの方とですね、定員の拡充ですとか、その受入体制の充実というのが図れた段階ですと、今の課題については整理していけたらいいかなというふうに現時点では考えております。</p>
君塚委員	<p>ありがとうございます。単なる希望っていうわけじゃないのですけれども、そうやっていったらいいなっていう両サイドの市とか4市の相互で利用できるというかなっていうのが希望なので、検討いずれしていただくとありがたいです。ありがとうございました。</p>
議長 (三木会長)	<p>ちょっとそのことに関して、おそらく田内課長補佐の方から富津市としての見解、今、君塚委員からお話があった市内、市外の子どもから言えば、市の壁、年齢の壁、増えたものについてなのですけども、冒頭、私自分で話したことをことさら強調するわけでもないのですけれども、今分かっている範</p>

発言者	発言内容
<p>事務局 (田内課長補佐)</p>	<p>圏で、おそらくこれは富津市と隣の君津市だけの問題ではないと思うのですよね。</p> <p>そういった中で、子育てをもっとしやすくするとか、入園、決め事に対して緩和させるっていう方向性が見えてきている中で、今回、対策をとる子育てしやすくするだとかっていう国の動向としては、何かつかめてるようなものってないのですか。おそらく、ここで言っちゃうと、あのときこう言ったじゃないかっていうふうなことを恐れているところもあると思うのですけれども、あくまでも動向としてですね、私、新聞だとか見てる中では、冒頭の挨拶でも言わせてもらったとおり、いろいろ緩和される場所が出てくる。というのが、今回の目玉だったと私は認識しているのですけれども。その一環として、決まったことではないし、まだ3月ですから、こども家庭庁も発足していませんし、ただ流れとしてはどんなことが考えられると思いますか。市の壁、年齢の壁に関しては、全く今までどおりなのでしょうか。</p> <p>国の方が、その個別具体的なといいますか、今のご意見、お話に関連するよなという観点からすると、個別具体的なものっていうのは出されていないのですけれども、国の方は、おっしゃるとおり新たな省庁が発足して子育て施策、少子化施策に対して力を入れていくっていうふうなことは周知の事実でございます。</p> <p>国の方は、一国という範囲の中で大きな視点から当然施策というのを打ち出し、それを受けて各市町村が地域の実情に応じて、それに対応していくというような図式は変わらないというふうに考えております。その中で、今のお話と関連付けるのであれば、現時点では、近隣の市とのそういった調整というテーブルにはまだ話は上がっておりませんし、また富</p>

発言者	発言内容
<p>議長 (三木会長)</p>	<p>津市にとって、富津市が子育てしやすい場所である、市であるっていうことは、誰にとって子育てしやすいまちであるべきなのかということを考えてときに、やはり、第一は富津市に住んでいらっしゃる方、富津市で子育てをしていらっしゃる方にとって子育てしやすいまちであるべきであるというのが、現状、市の一番の考えであります。そういった中で、様々な分野において、広域化というのは進んでおりますので、子育て施策に関しても、全くそれを縦割りにするっていう発想ではないのですけれども、ただ、富津市の現状のスタンスとしては、まずは富津市に住んでいただいて、子育てをしていただいているご家庭の方々にとって子育てしやすい環境を整えていくべきであるというのが、やはり、現状の市の考え方です。そこにまずは注力をしていくというのが現状の考え方です。</p> <p>もちろん、明澄幼稚園さんの方の事例でいったときに、富津市に園がありながら、お隣から来る方がその最初のお子さんが出て、その後のお子さんが選考の中でちょっと点数足らなかったというときに、どこ行くんだっていうと、例えば、君津市の居住先の保育園を探すしかないというようなこと。これは、だから富津市だけの問題じゃないわけですよ。逆に、富津市に住んで、君津の方に働きに行く親御さんからすれば、通勤がてら子どもを預けられるのであれば、君津の保育園に富津市に住んでいながらも君津の方が利便性が良いっていう通勤という送り迎えの観点からは良いっていうのもあるのですけども、それもやはり当然ながら、君津市の住民の方の子育てを第一に考えているところはもちろんあるわけですから、富津市単独の問題じゃないんですよね。なかなか対応は難しいところだと思うのですけれども。</p>

発言者	発言内容
鈴木委員	<p>和光保育園の鈴木です。明澄幼稚園さんのその問題・課題ってというのは、やはり、その小糸川沿いで君津市に隣接しているってところがやっぱりあの土地の問題としてあるんじゃないかなと思っているのです。富津市の説明のとおり、まず、ここでは富津市の子育て支援っていうものをどう充実させていくかっていう話を議論しなきゃいけないっていうのもある。その中で言うと、まず、富津市が全体として0・1・2歳児の受入体制がもし充実していれば、明澄幼稚園さん以外の保育園で充実していれば、君津市さんのお子さんたちを兄弟で受け入れるみたいなことができるわけじゃないですか。実際、0・1・2歳児の受け皿がどれぐらい余裕があるのかってところの問題が関わってきて、明澄幼稚園さんとその関連になってくるんじゃないかなというふうに思うので、市の壁の問題の前に、富津市の今市内でどれぐらいその0・1・2歳の受け皿があって、それがちゃんと満たしているのか。</p> <p>保育者の0・1・2歳児ってというのは、保育士配置基準でも、0歳児に対しては3人に1人必要とか、1・2歳児に対しては6人に1人必要ということで、人手がやっぱり必要なのですよね。そういう意味では、定員数を確保していたとしても、人手が足りないから受け入れられないみたいなこともあるんですね。そういう意味で、小糸川沿いの明澄幼稚園さんが0・1・2歳児の受け皿として開いてくれたときに、そこに富津市の子どもたちが流れ込むみたいなことっていうのはあるわけじゃないですか。そこら辺を何か1回明らかにしておく必要はあるのかなっていうふうには感じました。</p>
議長 (三木会長)	<p>元々のご意見が動向をお尋ねしたいということでしたので、市としての見解ということでお答えいただきました。よ</p>

発言者	発言内容
君塚委員	<p>ろしいでしょうか。</p> <p>はい、市の方の意見もすごくよくわかります。ただ、そのランク付けで点数制っていうのはわかるのですが、富津市に関係ないと、その書類さえ出せないところが現状なので、そこのところを変えてって、例えば、点数が低くてもその受け入れる定員数内に入るのであれば数に入れてほしい。ただ、やはり、例えば3か月後に富津から希望者が出るかもしれないってことで、富津市に全く関係ない方が他市からの応募ができない状況にあると思うのです。そこのところが変わってくると、点数制で定員内全部受け入れられればいかなってというのが現場ではあります。定員が余っていても、要するに応募ができない。3歳児はいいのですが、1・2歳児はやはり今そこに住んでない。おじいちゃん、おばあちゃん家もない。そこで働いている保護者じゃないとかっていうと、今、申請は多分できないと思うのですが、そうじゃなくて、段々その点数でやるのであれば、一応、検討の応募ができるラインに立たせていただければ、余っている定員であれば入れればいかなってというのが現状なんですけど。今、そのスタートラインに立てない方がいるっていうのが現状なので、そこのところを少しずつ変えていただければいいかなってちょっと思いました。</p> <p>市の方、すごくよく移行には協力していただいて、幼稚園も不備な点がたくさんあるのですが、一生懸命やっけていただいているのはわかるのですが、なんでこの子育て会議が始まったかってことを考えたときに、その市だけじゃなくて、千葉県・国全体から見れば、どこのところでも働きやすく、子供が行きたい園に行けて、兄弟揃って通えるっていうのがやっぱり国民的にはいいかなと思うので。ただ、</p>

発言者	発言内容
議長 (三木会長)	<p>富津だけで線を切るのはちょっと寂しいかなって思います。よろしくをお願いします。</p> <p>今のスタートラインに立てないっていうのは、富津市だけなのですか。</p>
事務局 (田内課長補佐)	<p>富津市だけではないです。近隣市も各市のホームページで公開していたりすると思うのですがけれども、富津市で言えば、富津市に勤務しているわけでもなく、居住しているわけでもなく、要は当該市に関係性があるかないかっていう点でなければ、近隣市もそもそも今の言葉を借りればスタートラインには立てないというふうなのが富津市だけではなく、周りも状況は同じとなっております。</p>
議長 (三木会長)	<p>ひとまずは、4月からの国の方向性が個別なところでそこら辺も突っ込んだものが出てくるようなことを市の方でも注視してもらって、何かあれば各園、また対象の親御さんたちにも周知してもらえればと思います。</p> <p>他に、今説明がありました議題（1）について、また事前提出されたご意見に対してのご意見、ご質疑等ございましたらお願いします。</p>
各委員	<p>(他に意見等なし)</p>
議長 (三木会長)	<p>よろしいですか。</p> <p>では、特定教育・保育施設の利用定員についてということでの資料を見ていただいた中で、皆様方から事前にご意見等を伺ったところ、ご説明にありました安藤委員からの2点ということだったのですけれども。事前にちょっと出せなかつ</p>

発言者	発言内容
各委員	<p>たのですが、会議が始まってから、また説明等を聞いてご意見等ございましたらこの場で受け付けたいと思います。いかがでしょうか。</p> <p>(意見等なし)</p>
<p>議長 (三木会長)</p>	<p>よろしいですか。それではないようですので、議題（１）の特定教育・保育施設の利用定員につきましては終了といたします。</p> <p>続きまして、議題（２）第Ⅱ期富津市子ども・子育て支援事業計画の中間年見直し（案）についてを議題といたします。事務局の説明を求めます。</p>
<p>事務局 (田内課長補佐)</p>	<p>はい。引き続き、ご説明の方をさせていただきます。</p> <p>議題（２）第Ⅱ期富津市子ども・子育て支援事業計画の中間年見直し（案）」につきまして、ご説明申し上げます。</p> <p>資料２－２をご覧ください。こちらは、今回お示ししている案につきまして、前回お示しした素案からの修正内容をまとめた資料となっております。こちらの資料に沿ってご説明申し上げます。</p> <p>まず、１の「修正趣旨」でございます。令和５年度及び６年度における幼児期の教育・保育の量の見込値について、より実情に即したものとするため、入所実績に基づく推計値、これは前回素案で示した数値のことを指します。推計値に保留見込者数、希望する保育所へ入所できるのを待っている児童数のことを言います。この見込者数を加え、また、令和５年度及び６年度における確保方策について、令和５年度から青堀保育園の運営法人が変わることに伴い、定員内訳数が変</p>

発言者	発言内容
	<p>更になるため、数値を修正する。前回、素案の時点では明澄幼稚園さんの方の定員数は変更後のものとさせていただいていたのですが、青堀保育園の定員数につきましては、現行の定員数での計算をしておりましたので、今回、青堀保育園の定員数について修正をさせていただいております。</p> <p>続きまして、2の「保留見込者数の算定」についてです。令和5年度及び6年度における保留見込者数につきましては、令和4年度における保留者数の最大値と同数を見込むものとするということで、下に表の方を記載させていただきます。令和4年度において、保留者数が最大になった時点での数値を記載させていただきます。それぞれ、居住地区、希望地区、年齢、人数を記載させていただきます。合計10人というのが令和4年度中のMAXの数値となっております。なお、令和5年3月1日現在での保留者数は5人となっております。</p> <p>続きまして、3の「素案からの修正箇所」について申し上げます。4ページの修正後、修正前の表と合わせてご覧いただければと思います。</p> <p>まず、富津・大佐和地区における量の見込みについてです。令和5年度における3号認定のうち0歳。修正前は17人であったのを、修正後は23人に修正しております。これは、2のところの表中で0歳の人数が5人と1人で6人となっておりますので、この6人を加えたものによっています。</p> <p>続きまして、2ページをご覧ください。令和5年度における3号認定のうち1・2歳。修正前は139人、修正後は143人としております。同じように、修正前の人数に1・2歳の保留見込者数4人を加えたものです。</p> <p>続きまして、令和6年度における3号認定のうち0歳。修正前は16人、修正後は22人としております。こちらも先ほどと同様に、修正前の人数に0歳の保留見込者数6人を加え</p>

発言者	発言内容
	<p>たものとしております。</p> <p>続きまして、令和6年度における3号認定のうち1・2歳。修正前は134人、修正後は138人。修正前の人数に1・2歳の保留見込者数4人を加えたものとしております。</p> <p>続きまして、富津・大佐和地区における確保方策について申し上げます。令和5年度における2号認定。修正前は402人、修正後は408人としております。これにつきましては、青堀保育園の定員数につきまして、修正前は現行の定員数である54人、3歳から5歳まで各18人としていましたが、修正後は令和5年度からの定員数である60人、3歳から5歳まで各20人としたことによるものであります。</p> <p>続きまして、令和5年度における3号認定のうち0歳。修正前は52人、修正後は45人。こちらも青堀保育園の定員数につきまして、修正前は現行の定員数である12人としておりましたが、修正後は令和5年度からの定員数である5人としたことによるものであります。</p> <p>次に、令和5年度における3号認定のうち1・2歳。修正前は186人、修正後は187人。青堀保育園の定員数につきまして、修正前は現行の定員数である24人1歳及び2歳各12人としておりましたが、修正後は令和5年度からの定員数である25人、1歳が10人、2歳が15人としたことによるものであります。</p> <p>3ページをご覧ください。令和6年度における2号認定、修正前は402人、修正後は408人。令和5年度のところで先ほど説明申し上げました理由と同じとなります。以下、令和6年度における3号認定のうち0歳。また、同じく令和6年度における3号認定のうち1・2歳につきましても、先ほどご説明した令和5年度と同数値であり、同じ理由で修正をさせていただきます。</p>

発言者	発言内容
	<p>最後に、富津・大佐和地区における「確保方策－量見込」でございますが、今、説明申し上げました量の見込みと確保方策、この差し引き後の数字に修正をしております。</p> <p>続きまして、資料２－１の３ページをお開きください。上段の富津・大佐和地区における令和５年度・６年度の表につきまして、ただ今、ご説明申し上げました内容に修正をしております。</p> <p>次に、ページが前後しますが、資料２－１の２ページをご覧ください。（１）見直し値の算定の③、それから（２）量の見込み及び確保方策の修正の②につきまして、先ほどの説明に合わせた内容に修正をしております。色付けしている部分が修正箇所となっております。以上で、説明を終わります。</p> <p>ただ今、事務局からの説明が終わったところであります。この件につきまして、ご質疑等ございましたらお願いいたします。</p>
議長 (三木会長)	
各委員	(質疑等なし)
議長 (三木会長)	<p>前回の素案から会議を経て、また皆様のご意見を伺った中で中間見直しについて案という形で修正されたことについての説明があったわけですが、ご意見等ございませんか。</p>
各委員	(意見等なし)
議長 (三木会長)	<p>では、ご意見等ないようですので、ただ今事務局から説明がありましたとおり、第Ⅱ期子ども・子育て支援事業計画を見直し、修正することに異議ないということでよろしいでしょうか。</p>

発言者	発言内容
各委員	異議なしの声
議長 (三木会長)	ご異議ないものと認め、中間年見直し（案）のとおり修正をさせていただきます。それでは、この件について事務局から何かございますか。
事務局 (水島係長)	<p>中間年の見直しにつきましては、委員の皆様方からたくさんご意見をいただきましてありがとうございます。本日、皆様から了承を得られましたので、体裁を整え、決裁の後、速やかに公表させていただく予定です。委員の皆様につきましては、見直し後の計画書を郵送させていただきますので、よろしくお願いたします。ありがとうございました。</p> <p><次第5 その他></p>
議長 (三木会長)	続きまして、次第の5、その他に移ります。本日、示されました議題は以上となりますけれども、委員の皆様方から何かございますでしょうか。
安藤委員	<p>また、明澄幼稚園と青堀保育園の話になるのですが、先ほど0歳と1歳、2歳の明澄幼稚園さんを希望する子が入れないという声をちょっと聞きましたので、富津市というか、富津地区全体で0歳、1歳、2歳の受け皿を増やしていただいて、富津の施設に通いやすい。あと、保護者としては、子どもが富津の施設に通うことによって、あと小学校も富津の友達と一緒にいいというふうになることが多いので、もし近隣の市の方とかが入れるようになれば、その富津の小学校に入学したい。家をそこに購入したいという方も増えるんじゃないのかなと思います。よろしくお願いたします。</p>

発言者	発言内容
議長 (三木会長)	これについては、回答というか、行政サイドの考え、またご意見というのはいかがですか。特に要望としての声だけでよろしいですか。
安藤委員	要望としてです。
議長 (三木会長)	<p>保育園に関しては、先ほど説明があったとおり、当該の保育園とかに相談して、保育園の受入体制、単に部屋割りだとか、保育所の数とかのものだけでは済まないところもあると思うのですけれども、許せる範囲であれば受入数の変更っていうのは不可能じゃないというようなことで私は聞こえたのですけれども。</p> <p>市としても居住人口を増やしたいという中で、今、安藤委員からもお話がありましたけれども、スタートラインから子育てしやすいまちっていうところで、保育園、幼稚園の入園というところからを切り口にして、移住だとか、新築で家を富津に構えようかっていうところにも繋がってくる可能性があるんでっていうことで、そこら辺を踏まえてですね、柔軟に対応できるところは対応してもらえればと思います。なかなか難しいところもあると思うのですけどね。</p>
事務局 (小野田課長)	<p>はい、ご意見ありがとうございます。</p> <p>定員の方は状況によってですね、安藤委員もご承知のように、青堀保育園は元々200人の定員の施設ですので、保育士、職員配置基準を満たすように先生方を配置できれば増やしていくことは可能です。</p> <p>安全・安心な保育環境を確保するには、基準を満たした部屋の大きさと先生方の人数というものが一番大きく影響してきますので、それによって利用定員も満たしていけるのであ</p>

発言者	発言内容
<p>議長 (三木会長)</p> <p>宗政委員</p>	<p>れば定員の見直しは可能です。</p> <p>やはり、今、全国的にも言われていますけれども、保育士の確保不足ということがあります。富津市については、やはりそこが公私立含めて深刻な部分があるということで、令和5年度からですけれども、市の方も保育士を確保するため、民間の保育園が保育士の宿舍を借り上げる場合、その家賃補助をするように新たな補助金の制度を作ったり、試行錯誤で保育士確保のための方策を考えて少しずつ実行しているところですので、なかなか効果がこれからどう出てくるかというところもありますけれども、一応指をくわえているわけではないというところをご理解いただきたいと思います。</p> <p>それとですね、また別の補助金ですけど、ICT化ということで保育士のいろいろな負担を軽減するために、今ほとんど手作業で保護者との連絡、連絡帳ですとか、登園・降園の処理ですとか、ICTを使って負担を減らしていくという、そういうシステムの場合の補助金を国も用意したので、市もそれを活用して支援していきたいというようなことも始めております。色々なことを使って、保育士、富津市の保育環境を整備するため、これからも努めてまいりますので、ご理解をお願いしたいと思います。</p> <p>色々と行政の方も頑張っているってことをまず認識していただければと思います。他にご意見等ございますか。</p> <p>今、保育所の方とか、その保育現場の環境を整える準備をこれから行っていくっていうお話だったのですけれども、養成校としましては、日頃から富津の幼稚園さんですとか、保育園さんに実習先として受け入れていただいて大変お世話になっております。</p>

発言者	発言内容
<p>議長 (三木会長)</p>	<p>その中で、保育士を目指す学生、高校生自体が減少しているというそういう現状もありまして、実は今年度よりご存知だと思いますが、木更津市では、保育士を確保するために市独自の奨学金制度というものがありまして、木更津市の養成校か、もしくは木更津市に住んでいるということを経験条件にして、養成校はうちだけですので、清和短大に来るか、もしくは木更津市の高校生が近隣の養成校に行って保育士の資格を取って、そして木更津市の保育園に就職する場合、3年間働くということを経験条件として月額3万円の返さなくてもいい御礼奉公付きの奨学金制度というものが今年度から始まりました。定員が20名ということだったのですけれども、清和が関わっているというところで、最初に清和の学生にその公募権をいただきまして、今年度の卒業生と今の一年生が手を挙げて、多くの学生が木更津市で保育士として働くことを条件にお金を借りている状況です。</p> <p>今、高校に学校説明とかに行きましても、家庭の家計の状況から、なかなか県からもらえる奨学金とか、学生支援機構の奨学金だけでは足りなくて、学費の問題で進学もしくは保育士を諦めざるを得ない、そういう事情の生徒さんがすごく多くおりましたので、木更津市は今年度から始まりましたけれども、富津から通われている学生さんも木更津市で働くということを経験条件に手を挙げた学生もおりますので、そういうところで言いますと、その市独自の保育士を確保するためのそういうような施策も考えていただければというふうに思います。</p> <p>先ほど部分的に、小野田課長からもご説明があったのですが、ちょっと全て申し上げるわけにはいかないのですが、先立て、令和5年度の予算の審査が終わりまして、200億</p>

発言者	発言内容
<p data-bbox="215 1814 316 1848">各委員</p> <p data-bbox="215 1937 284 1971">議長</p> <p data-bbox="236 1998 391 2031">(三木会長)</p>	<p data-bbox="512 264 1404 611">を超えるだけの当初予算、議会としても承認をしたところ です。そのお金は、先ほど課長から説明があったとおり、私も ちょっと驚いたのですけれども、保育士さんを確保するた めに、民間の私立保育園さんがその保育士さんの居住させるア パートとかを借りた場合には、市からも家賃の補助をします というようなことでちょっと私も驚いたのですけれども。</p> <p data-bbox="512 636 1404 795">木更津市さんとの税収の上がり方ですとか、予算の規模が 違っているところもあるのですけれども、ずいぶん刺激的な 施策だと私も今聞いて驚きました。</p> <p data-bbox="512 819 1404 1664">今、お話したとおり、令和5年度の予算は通ったばかりで すので、すぐってわけにはいかないのですけれども、こうい った事例があったということ踏まえて、健康福祉部、また 子育て支援の方の当該課の方からもちょっと色々模索して みてもらって、いいことであれば真似でも良いと思うのです。 また、それが財政的に手の届く範囲であれば木更津市が3万 円ならば、富津市は2万円からスタートするっていうところ でも良いと思います。やはり、保育士さんが確保できないと 子どもを見る人がいないので全てが始まらないので、ちょっ と驚いた内容が富津市でもやっているのですけれども、木更津 市がそういった形でやってると今聞いて刺激を受けましたの で、参考にして真似できる、やれるところはやってもらって もいいんじゃないかなと思います。ちょっと念頭に置いても らってということをお願いしたいと思います。</p> <p data-bbox="544 1688 954 1722">他にご意見等ございますか。</p> <p data-bbox="533 1814 724 1848">(意見等なし)</p> <p data-bbox="549 1937 855 1971">よろしいでしょうか。</p> <p data-bbox="544 1998 1404 2031">はい、では委員の方から特にないようですので、事務局か</p>

発言者	発言内容
<p>事務局 (荒木主任主事)</p>	<p>ら何かございますか。</p> <p>令和5年度の子ども・子育て会議についてご案内いたします。令和5年度子ども・子育て会議につきましては、毎年度実施しております前年度の実績報告のほか、次期計画策定のためのニーズ調査についてご意見等を伺いたいと考えておりますので、引き続き、委員の皆様のご協力をお願いいたします。なお、次回以降の会議の開催につきましては、詳細が決まり次第ご案内いたしますので、よろしくをお願いいたします。</p>
<p>事務局 (坂本部長)</p>	<p>部長の坂本でございます。</p> <p>本日の会議にご出席いただきまして、年度末というところで本当にありがとうございます。</p> <p>今年度から新たに11名の委員の皆様にご快諾をいただきまして、この富津市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しをはじめまして、富津市の子育て施策に対し、たくさんのご意見を頂戴いたしました。本当にありがとうございます。</p> <p>年度末ということで人事異動や役員の交代などによりまして、今年度で退任されます委員の皆様におかれましては、任期中、大変貴重なご意見をいただきまして本当に感謝を申し上げます。</p> <p>また、引き続き、委員をお引き受けいただく皆様におかれましては、次期計画の策定に向けましてご意見を伺いたいと思っておりますので、令和5年度以降も活発なご議論、ご意見を賜りたいというふうに思っております。</p> <p>私、この3年間、健康福祉部の子ども関係、子育て関係の担当をさせていただきました。この4月の異動によりまして、議会事務局というところに異動させていただきます。</p>

発言者	発言内容
<p>議長 (三木会長)</p>	<p>しかしながら、私も子供が3人おまして、一番上の長男は就職になったのですが、今年、大学生とまた高校入学ということで、まだまだ子育ての真っ最中というふうに思っております。いろいろ費用的な面でも大変な時期だと実感をしているところでありますので、引き続き、この会議について、私はちょっと外れますけれども見守っていきたいなというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。以上、ありがとうございました。</p> <p><次第6 閉会></p> <p>本日の日程は全て終了となります。以上をもちまして、令和4年度第3回富津市子ども・子育て会議を閉会といたします。皆様方、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。</p>